

週刊 教育資料

No.1511

2月18日号

2019年



潮流
古代のものづくりから生き様を捉える
鈴木勉／工芸文化研究所所長

校長講話
達成感・感謝の気持ちを育てる講話
小川深雪／東京都文京区立林町小学校校長

玉置崇の新学期指導要領
学習指導要領に「人工知能」が登場する時代
玉置崇／岐阜聖徳学園大学教育学部教授

現場での生かし方

教育の危機管理
なぜ、いま校則の見直しか—生徒市民の立場から
安藤博／子ども法学者

マイオピニオン
年賀状の喜び
平野啓子／語り部・かたりすと

資料
新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・
運営体制の構築のための学校における働き方改
革に関する総合的な方策について(答申)④
中央教育審議会

鈴木勉
すずき・つとむ◎1949年、横須賀生
まれ。早稲田大学理工学部卒。工芸
文化研究所理事長。奈良県橿原考
古学研究所共同研究員。早稲田大
学會津八一記念博物館招聘研究
員。専門は金石学。著書に『漢委奴
国王』金印・誕生時空論—金石文学
入門』、『造像銘・墓誌・鐘銘美しい
文字を求めて』など。

● 自著を語る ● BOOK



Profile

一人ひとりの“わくわく”から考えるキャリア教育を全国展開し、4万3千人以上の子どもたちにプログラムを提供。大学における男女共同参画推進検討委員、企業のCSR教育プログラムアドバイザーなど務める。講演、教員研修など多数。

『ふつうの主婦が見つけた
やる気のエンジンのかけ方』

高陵社書店 1296円
☎03-3234-8110



認定NPO法人キーパーソン21代表理事

朝山あつこ / Atsuko Asayama

子どもの“わくわく”
引き出す力を

自ら動き出したくなる原動力

私は、もともと3人の息子を育てる普通の主婦でした。ところが、長男の通う中学校で学級崩壊が起きたのです。

学校は楽しいものだと思っていた私には、大きな衝撃でした。荒れる生徒、無気力な生徒。どちらも自分のエネルギーの向け先を見失っているように見えました。

さらに、息子が「高校には行かない」と言い始めたことで、高校、大学、就職と進むことが当然だという私自身の固定観念に気付かされたのです。

そこで、親として子どもに与えることができるものは何なのか、改めて考えました。財産、学歴、就職先……それよりも子ども自身がわくわくして動き出さずにはいられない原動力「わくわくエンジン」を見つけ出すことだと思い至ったのです。でも、自分の息子だけがその原動力を見つけ出しても、幸せとはいえない。日本中の子どもたちがわくわくしていないなんて、そんな思いに突き動かされて、2000年にNPO法人を立ち上げました。

その思いに賛同して、学校の先生や会社経営者、行政職員、大学教職員、大学生・院生など多様なメンバーが集まってくれました。そして開発したのが「夢！自分！発見プログラム」です。

名詞的わくわく、動詞的わくわく

野球好きの中学生にどんなキャリア教育をしますか？ 野球が好き！野球選手と短絡的に職業に結びつけるのは危険だと思っています。そこに届かないと気付いた途端、夢を失ってしまふ。でも、野球が好きで生徒にも、作戦や戦略を立てるのが好きな子もいれば、チームの目標達成に貢献することに喜びを感じる子もいます。私たちが注目するのは、この部分です。

「野球」は、興味の対象。「作戦を立てる」ことにわくわくするのだと分かれば、運動会の競技の戦略作りを任せたり、家族旅行の企画をしたり、活躍の場を作ることができず。好きなものを名詞的わくわくでなく、動詞的わくわくで見つけ出したときに、子どもたちは自発的に動き出します。

本書では、こうした事例を各

種の教育プログラムとともに紹介しています。小中高校のキャリア教育としてだけでなく、定時制高校や生活保護家庭の子どもたちへの学習支援の場でも成果を上げています。企業や地方の青年会議所なども協働し、2017年には経産省のキャリア教育アワードを受賞。これを機に、全国の大学や教員研修、まちづくりにも広がりを始めています。

先生自身がわくわくを！

学習指導要領が変わり、大学入試が変わり、AIの時代がやってくる。同質な産業人が求められる時代は終わりました。異質なもののから、イノベーションは生まれます。子どもたち一人ひとりの原動力を引き出し、認め、磨く力が大人に求められています。

先生方は忙しいと思います。私たちは教員研修も行いますが、一時間もあれば先生たちは開放されたような表情にがらりと変わります。まずは先生自身が、自分のわくわくエンジンを見つけることで、自身の教員としての使命が改めて見えてくることだと思います。